

受験番号
氏名

トヨタ看護専門学校 2026年度 推薦入学試験 問題（小論文）

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

子どもの頃、よく仮病を使っていた。学校に行きたくない日、「頭が痛い」とか「体がだるい」とか「おなかが痛くて、死ぬかもしれない」と言つて、風邪を引いた演技をするのである。最初はそれで風邪認定されていたのだが、朝は苦しそうな顔をしているのに、休むと決まった途端に、嬉々としてテレビを見始めるので、徐々に親もおかしいと思ひ始めたのだと思う。あるときから、エビデンスの提出を求められるようになった。体温計で37度以上を叩き出さないといけなくなったのだ。

これには困った。仮病は科学に弱い。いたいけな子どもがどんなに重病人を装っても、体温計は「35・8℃」という無慈悲な数字を表示してくる。機械は無粋である。今後医療も人工知能化していくと言われてはいるが、こういうときに空気を読んで、「37・7℃」くらいのいい塩梅の数字を出せやさしいAIは開発されているのだろうか。

ともあれ、人間は機械の奴隷にあらず。人類の尊厳のために、体温計の支配から脱しなくてはならぬ。ホモサピエンスとしての使命を自覚した私は、知恵を振り絞った。そうして編み出されたのは、パジャマの裾で体温計をゴシゴシこする技術であった。かつて我々の祖先が火を熾したのと同じ方法だ。

問題はエネルギーの制御である。テクノロジーは暴走しやすい。一度発生した熱をコントロールするのは至難の業で、油断すると体温計が「39・8℃」とはじきだしてしまう。すると、病院に行かなくちゃいけなくなり、ゆったりテレビを見ていることができなくなる。これはいけない。修練を重ねた私が到達したのは匠の領域だった。人間国宝が日本刀を研ぐように、私も精妙に、そして繊細に体温計をこされるようになり、「37・4℃」をコンスタントに出せるようになった。病院に行くほどではなく、一日休ませて様子を見たくなる至高の体温だ。

こうして仮病を薬籠中のものとした私は頻りに学校を休むようになった。それを横で見ていた妹は、私が病弱な人間で早死にすると思っていたさうだ。性格が悪いのも死期が近いせいだと思つて我慢していたらしい。それほどに私の仮病は完成度が高かった。演技もすごいし、エビデンスだったのだ。

世間では「うつは心の風邪」と言われることがあるが、これは製薬会社が新薬の販売促進のために作ったキャッチコピーであり、うつは実際には風邪とはいえない。長期化しやすいし、人生に深刻な影響を与える。ライトなものではないのである。

むしろ仮病こそが「心の風邪」ではないか。それなりに毎日学校や仕事に行っているのに、ある朝突然「今日行きたくないなあ」と思う。これをサボリと思つてはいけない。いや、サボりかもしれないが、「サボりたい」と思っている時点で、あなたはいつもと違う。あなたの心は炎症を起こし、発熱している。

つらいのは、心の発熱を体温計で測れないことだ。医療人類学では、欧米ではうつは精神面での変化として表れるが、日本を含めた東アジアでは身体面の変化として表れやすいと語られている。私たちの文化は、体にしっかりと症状が表れるまでは、病人として扱ってもらえず、休養に入ることが難しい。しかし、体に症状が表れたときには、かなり厳しい状態になっているわけだから、本当はそれ以前 somewhere ケアが開始されるべきなのに。

病気になるために一番重要なことは、心と体をカチンコチンに鍛えることではない。硬すぎる鉄はポキッと折れやすい。そうではなく、病気がまだ小さいうちに発見し、小まめにケアを受けることこそが王道である。

そう考えると、仮病こそが最強の健康法だとわかる。心の発熱を繊細にキャッチし、大げさな演技で体調不良をアピールする。そうやって、休養と周囲のケアを調達する。そもそも体調不良を演じていると、だんだんと本当に苦しい気持ちになってくるものである。実際に発熱していなくても、熱が出たような気分になってくる。そうなるとシメタものだ。あなたの心に蓄積した疲弊が、体を損なうことなく、発散される。

逆に言うならば、身の回りで仮病を使っている人を見かけたら、その演技に乗ってあげるべきだ。たとえば子どもが仮病を訴えているなら、エビデンスの提出を求めるのではなく、脚本に沿ってケア役を演じてあげる。心配してあげ、休養を取らせてあげる。こういうことだ。目には目を、演技には演技を。仮病を癒すのは、仮治療なのである。そうじゃないと、「心の風邪」は「心の肺炎」にまでこじれてしまつて、長期療養を余儀なくされてしまう。後遺症が残ることだってある。

（東畑開人『心はどこへ消えた？』による。）

問一 傍線部「仮病こそが最強の健康法だ」とあるが、これはどういうことか。本文の文脈に沿って、六〇字以内で説明せよ。（句読点も一字に数える）

問二 右の文章に対するあなたの意見・感想を、具体例をまじえて述べよ。（六〇〇字以上八〇〇字以内）（句読点も一字に数える）